

出演者リスト

マーキュリー・グリー・クラブ (団員名簿 2005年2月1日現在)

T1	中山 光雄	関 穎介	藤原 浩	岡野屋正男	小島順一郎	末吉 建一	田口 和義
	二名 實	石林紀四郎	吉岡 省吾	佐藤 雅巳	中尾 丈夫	丸山 達雄	
T2	西村 親一	野村 勇雄	石渡 尚夫	平野 真	篠崎 博	田村啓一郎	長尾 明信
	太平 勲夫	新田 晴男	小室 滋	池田 信彦	益子 正稔		
B1	梅澤 稔	藤本 淳三	井尾 篤男	立川 昭夫	永井 宏	蓮 隆詔	星加雄一郎
	石原 隆	川端 健一	正清 雄三	徳山 巖	黒田 修一	宮内 隆造	
B2	中島 靖之	有馬 賢次	小林 迪之	住田 誠蔵	谷河 義久	葛西 敏昭	高倉 勇
	日比野英一	加藤 孝雄	井上 清彦	光瀬 靖彦	府川 朝次	北澤 和郎	竹内 克広

六甲男声合唱団

T1	川本 昭男	岸本 義彦	小林 和生	佐々木英洋	正井 春吾	松岡 茂雄	鷺尾 隆三
	三好 和通						
T2	赤司 健	織田 弘一	肥塚 禎夫	菅原 啓之	杉原 豊	成子 次男	花岡 亜光
	藤原 稔也	藤原 達也	矢島 侃	和久井 仁	寺井 洋一		
B1	浅野 洋	伊原吉之助	浮田 順一	大谷 遷	大西 克彦	加輪上敏彦	河村 達也
	丹下 豊吉	堀内 丈義	松井 嘉和	増川 真澄	松村 恭一	山本 和洋	山本 稔
B2	東 尚良	石井 洋之	石井 陽一	伊藤 彰	井上 和雄	大淵 覚	河原 達
	田中 安夫	長央徳太郎	永岡 昇司	永岡 幸生	堀尾 和也	吉田 哲朗	

南漣会合唱団

T1	石田 等	尾崎 納	齋藤 三朗	中島 圭意	南本 豊樹	福野 成雄	藤田 徹夫
T2	今西 弘一	今村 肇	川口 浩	久野 利夫	戸田 勝	服部 栄治	丸尾 嘉重
	村山 徹郎	渡辺 義博					
B1	石井 欽三	石川 健夫	上田 稔	黒岩 勝彦	谷岡 昇	中川 静雄	西田 博光
	廣岡 孝一	松田圭一郎	山内 荘作	横田 卓郎	米田 直也		
B2	井上 知三	上木 喜昌	大道 彰	小倉 裕	桂 貞夫	鎌木 武男	小関 光男
	下伊豆哲央	寺前 芳博	中島 泰典	三栖 隆	宮田 潤	村上 勇	森田 清
	安井 永						

東京南漣会合唱団 (団員名簿 2005年2月12日現在) (合同演奏)

(*:南漣会合唱団演奏に参加)

T1	鎌田 禮章	黒田 俊之	田和 達夫	原田 佳晃*			
T2	井上 英康	小川 泰嗣	桂 晃一	小林庄次郎	田中 秀夫	宮内 隆造	鶴田観治郎
	平手 彰						
B1	川上 彰一	木田 豊	栗栖 紀文	徳山 巖	三澤 正治	宮田 菊俊	西村 正生
	田中 利治						
B2	井上 嘉雄	上村 正昭	掛谷 正宏	諏訪部和彦	中川 清	中川 博義	永田 利地
	山内 洋一	奥山 巨樹					

旧三商大OB男声合唱団

交歓演奏会

マーキュリー・グリー・クラブ

六甲男声合唱団

南漣会合唱団

2005年3月19日(土) P.M.2:00

大阪国際交流センター 大ホール



ごあいさつ

本日は、旧三商大OB合唱団の第2回交歓演奏会にご来聴いただき有難うございます。私たちが三つの合唱団は、それぞれ一橋大学(旧東京商科大学)、神戸大学(旧神戸商業大学)、大阪市立大学(旧大阪商科大学)のOBからなり、学生時代から男声合唱に親んできました。

これら三商大は、半世紀以上も前からたがいに深く交流し、いろんな形で影響あつてきました。そして戦後、学制改革と共に大学名も変わりましたが、旧三商大交歓音楽会として現役部員に受け継がれ、歌い続けられてきました。私たちがも遠征に、ステージに、心弾ませ、緊張した思い出があります。

一昨年、私たちOBが一堂に会し、東京・調布市で旧三商大OB交歓演奏会が開催できたのは、旧き郷愁だけでなく、今もなお男声合唱の向上を目指して練習を重ね、その成果を皆様に聴いて頂きたいとの熱意にほかなりません。本日、またここに遠き日に思いを寄せ、ステージで共演できることを嬉しく思います。

近年はどの大学も女子学生が増え、コーラスといえば混声合唱が盛んで、男声のみの合唱団は部員集めに苦戦を強いられていますが、私どもOB合唱団には卒業がないので団員減少の悩みは少ないものの、高齢化は否めません。幸い、団塊の世代が漸次リタイアしていくこれからは、団員も増え平均年齢の上昇を薄めてくれるのではないかと期待しております。

プロでも老いとともに声の艶が薄れますが、基礎訓練が不十分な私たちOB合唱団はそれ以上で、音質のばらつき、音程の不安定など欠点がありますが、それぞれ指揮者の指導の下、向上を目指し精進してまいりました。その成果を皆様にお届けたく一生懸命歌います。ここから、男声合唱の醍醐味を鑑賞して頂ければ幸いです。

最後に、今後とも三つのオールドボーイ・コーラスに温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日はまことに有難うございました。

マーキュリー・グリー・クラブ
六甲男声合唱団
南濤会合唱団

PROGRAM

六甲男声合唱団

指揮:井上 和雄

モテット

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. IN MONTE OLIVETI | 作曲/G. B. Martini |
| 2. HODIE APPARUIT | 作曲/O. D. Lasso |
| 3. AVE REGINA COELORUM | 作曲/G. Aichinger |
| 4. AVE MARIA | 作曲/Vittoria |
| 5. O SACRUM CONVIVIUM | 作曲/Viadana |

南濤会合唱団

指揮:三栖 隆

男声合唱組曲「月光とピエロ」

- | | | |
|----------------------|--------|---------|
| 1. 月 夜 | 詩/堀口大学 | 作曲/清水 脩 |
| 2. 秋のピエロ | | |
| 3. ピエロ | | |
| 4. ピエロの嘆き | | |
| 5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様 | | |

☆☆☆ INTERMISSION ☆☆☆

マーキュリー・グリー・クラブ

ロシア民謡

指揮:永井 宏

ピアノ:中野 マリ

- | | | |
|-------------|-------------|----------|
| 1. 黒い瞳 | 編曲/イジュンチル | 作詩/門馬直衛 |
| | 補作/鄭基成 | |
| 2. ともし火 | 編曲/三木 稔 | |
| 3. 鶴 | 作曲/Y. フレンケリ | 訳詩/坂山やす子 |
| | 編曲/荒谷俊治 | |
| 4. カチューシャ | 訳詩/石丸 寛 | 編曲/福永陽一郎 |
| 5. 緋色のサラファン | 訳詩/津川主一 | 編曲/福永陽一郎 |
| 6. カリンカ | 編曲/ガス・アントン | |

合同演奏

男声合唱組曲「柳河風俗詩」

指揮:今西 弘一

マーキュリー・グリー・クラブ

六甲男声合唱団

南濤会合唱団

東京南濤会合唱団

詩/北原白秋 作曲/多田武彦

1. 柳 河
2. 紺屋のおろく
3. かきつばた
4. 梅雨の晴れ間

『 曲目解説 』 モテット 六甲男声合唱団

モテットとは無伴奏の宗教曲のことを指していますが、この形式はルネッサンス期からバロック期にかけて盛んに作られました。それに対して世俗の感情、たとえば自然や恋をテーマにした無伴奏の合唱曲がマドリガルと呼ばれています。ともかくこれらの無伴奏の合唱曲が盛んに作られたのは、実は器楽曲がまだそれほど発達していなかったため、多くの才能ある人たちがこの分野で活躍したからです。特に、西洋音楽の担い手は教会でしたから、モテットは当時の音楽的展開の中心をなしたジャンルだったのです。

いいかえるとモテットは当時の音楽上の最高の天才が生み出したものでした。だから、曲の質が非常に高いのです。それぞれに控えめでありながら、なんと豊かな感情が歌われていることでしょう。今日はその中から5曲を選んで演奏します。

1. IN MONTE OLIVETI (G.B.Martini)

いわゆるゲッセマネでのキリストの祈りを歌ったもので、清澄な和声が印象的です。

2. HODIE APPARUIT (O.D.Lasso)

「キリストが今日お生まれになった」とキリスト誕生の喜びを晴れやかに歌います。

3. AVE REGINA COELORUM (G.Aichinger)

マリア賛歌です。伸びやかな旋律が、ポリフォニックに重なり合う流れがとても美しい曲です。

ここまでは三声ですが、あとの二曲は四声です。

4. AVE MARIA (Vittoria)

これもマリア賛歌ですが、マリアへの呼びかけに個人的な思いが感じられます。

5. O SACRUM CONVIVIUM (Viadana)

聖餐を歌ったものですが、導入部のゆったりした和声次第に動きを増し、さらに三拍子から四拍子へとダイナミックな展開を示します。その点モダンな形式をとるにいたったものと言えるでしょう。

(井上 和雄)

『 指揮者 』 井上 和雄



1963年神戸大学経済学部卒。在学中は同大学グリークラブの指揮者。現在は、同大学OBを主体とする六甲男声合唱団の音楽監督兼指揮者。また女声合唱団クール・フレール指揮者など客演指揮も多い。音楽評論のほうでも、サントリー学芸賞を受けた「モーツァルト心の軌跡」ほか、「ベートーヴェン闘いの軌跡」「ハイドンロマンの軌跡」「ロンドン音楽紀行」など著書も多数。画家としても30数年来、毎年個展を開催している。神戸芸術文化会議会員。

『六甲男声合唱団の紹介』

50年前の1954年、神戸大学グリークラブのOB20数名によって六甲山の麓に誕生した男声合唱団で、同年の合唱祭にロシア民謡を歌って鮮烈なデビューを飾りました。以来、シューベルト・フォーレ等、西洋の正統音楽、日本の合唱曲にもレパートリーを広げ、現在では団員数約50名に3人の団内指揮者を擁して、充実した合唱活動を行っています。昨年11月には創立50周年記念演奏会を神戸ハーバーランドの松方ホールで成功裡に開催、意欲的なプログラムも相俟って多くの聴衆の皆さんと感激を分かち合うことが出来ました。近年は二度に亘る海外演奏旅行(フランス)を行うなど現地の合唱団との交流を通じて国際親善の実を挙げて来ましたが、今年も8月にドイツ各地に遠征、4回の演奏会を予定しています。

これからは、来るべき60周年に向かって気分も一新、恒例の定期演奏会(隔年)を始め、旧三商大OB演奏会、伝統のANCORの会等のステージを通じてさらにレベルの向上を図って参りたいと思っております。また、今まで同様に、出身校にこだわらず広く同好の士を求め、楽しく刺激的な合唱活動を進めて参ります。

『 曲目解説 』 男声合唱組曲「月光とピエロ」 南漣会合唱団

詩/堀口大学 作曲/清水 脩

この曲は未だ戦後の荒廃が色濃く残る昭和24年に、大阪生まれの作曲家清水脩が、詩人堀口大学のピエロをうたった詩を集めて作曲し、男声合唱組曲という新しいスタイルで発表した。

当時、人々は生きることに精一杯でありピエロがもつ独特なキャラクターに無駄のない絶妙な音が重なり合ってつくりだす何とも言えぬ悲哀が、人々の心に深く染み入り共感を呼んだ。今日においても演奏会でしばしばとりあげられるのは、この曲が、この世の常である人間の深い悩み、耐え難い絶望など内なる相克と、その情感をうたいあげながらも、明日への希望をピエロに託して表現しているからではないだろうか。

また、純粹で神秘的な月光を脇役として配したことは詩曲の共鳴を深め、一層人々の心を魅了した。月光を主題にした詩、音楽は数多く存在するが、この歌の詩曲の作者も少なからず月光に憑かれたのだろうと想像する。

堀口大学いわく「詩は浅く意は深く」を象徴するようなこの詩を採り上げた作曲者の選択と作曲も見事の一言につきる。

第1曲 透明で無機質な月光の下、ピエロがズームアップされこの曲の幕開けとなる。

第2曲～第4曲 ピエロの持つ哀感と運命が歌われる。なかでも第4曲はピエロの悲哀を極限にまで表現しているが、哀しくなるほどに美しい。

第5曲 一転して月下にピエロとピエレットが音のダイナミズムの中で踊り、舞い、この曲はにわかに終わる。

『指揮者』三栖 隆



1964年大阪市立大学卒業。在学中はグリークラブに所属し、一年間正指揮者をつとめた。2000年南漣会合唱団に所属し、2003年指揮者に就任。また、チェロを藤原士郎氏に師事、中島圭意団員他とカルテット“ミリアム”を結成し、弦楽アンサンブルをたのしむ。

『南漣会合唱団の紹介』

南漣会は、1940年に大阪商科大学(現大阪市立大学)グリークラブOBと現役部員の団体として設立し、第1回演奏会を催しました。翌年大戦に突入、そして敗戦。演奏の詳細な記録などは、残念ながら戦中・戦後の混乱期を挟んだため残っておりません。

合唱団としての活動再開は1953年で、1964年に第2回演奏会を開催しました。1980年、母校創立100周年を機に、同窓組織の南漣会とは別に「南漣会合唱団」を組織し、16年ぶりに第3回演奏会を開催しました。その後、一般の男声合唱愛好者にも参加を呼びかけ、市民合唱団としてほぼ隔年に演奏会を開催しております。今年も、母体である市大グリークラブが設立80年、また南漣会は設立65年、そして第15回演奏会という節目でもありますので、その記念演奏会を11月20日(日)にドーンセンターホールで開催します。また、1981年に4大学の「OB男声合唱の集い」を開催、翌年から「五つのOB男声合唱の集い」(京大・大阪市大・東大・阪大・神大の各OB合唱団で結成した「ANCOR(アンコール)の会」が主催)を毎年開催し、今年5月29日(日)には第25回「五つのOB男声合唱の集い」を開催します。このほか、老人クラブの慰問演奏など、活動の場を広げております。なお、この演奏会を期に、東京南漣会を中心とした「東京南漣会合唱団」が組織され、本日の合同演奏に参加します。

近年、合唱団の海外遠征が盛んですが、南漣会合唱団も1997年モナコ公国での「日本フェスティバル」に参加、1999年上海における大阪・上海友好都市締結25周年記念式典の祝賀式で演奏し、また、上海同済大学教職員合唱団と交流演奏会を開催し好評を博しました。近い将来、次の海外演奏を予定しております。

私たちのレパートリーは、Negro Spirituals、宗教曲(ロシア聖歌も含む)、各国の民謡・合唱曲などで、これからもジャンルにとらわれることなく、レパートリーを広げ、歌っていきます。

『 曲目解説 』 ロシア民謡 マーキュリー・グリー・クラブ

「ロシア民謡」あれこれ

ロシアでは歌は特別な意味を持つ。16世紀、皇帝の圧制と窮乏を逃れてドン河流域に住み着いたコサック(自由人)の人々は、そこに独唱と合唱を組み合わせた独自の多声音楽を築いた。ドン・コサックの人々は農民暴動の指導者として全国各地を歩いて農民を指導し、それとともに彼らの多声歌も全土に広まった。民衆から歌が生まれた。教会でもロシア正教は典礼で楽器の使用を禁じているため未だに聖歌はすべて無伴奏。したがってバッハのオルガン音楽のようなジャンルはロシアには存在する余地が全くなく、人の声すなわち歌を主体とした芸術が高度に発達した。

フランス革命の影響を受け、1825年ロシアで革命を起こそうとしたデカブリストの乱。敗れてシベリアに流刑された囚人や、関わった人々の悲痛な生き様、悲しみや怒りが歌となって歌い継がれた。

こうした「囚人の歌」「トロイカ」「ヴォルガの舟歌」「仕事の歌」などのロシア民謡は暗く、重い。しかしその哀愁に満ちた短調の調べは日本人の心を揺さぶる。こうした暗さの反面、民衆はたくましく生活の中に歌を楽しむ。「カリンカ」は婚礼の祝いに可愛い花嫁を称えてはやし立て歌い踊る歌だ。

19世紀には貴族達の夜会、宴会の中で即興で作詞作曲して歌い客の喝采を得ることが流行。「赤いサラファン」のようにゆっくりとしたテンポで叙情的な旋律を歌ういわゆる「ロシア・ロマンス」だ。

ロシアで特殊な地位を占めていたジプシーの歌の情熱的で官能的な調べも18世紀頃から広く愛されてきた。黒い瞳よ、黒い瞳よ、……なんとも単純な「黒い瞳」だけしかない歌詞。顔でも姿でもなくエキゾチックな黒い瞳に魅入られてとりこになったロシアの男の思いの丈はいかばかり。

日本で歌われる「ともしび」「カチューシャ」などの「ロシア民謡」の大半は第二次大戦前後の戦時歌、軍歌。「非常時」に恋を歌うなんて日本ならさしずめ非国民の歌！ 同じく戦争を歌った「鶴」は広島の水爆禁止世界大会に参加した感慨をもとにガムザートフが書いた詩にフレンケリが曲を付けたもの。人の世のいくさの悲惨を嘆く詩と曲が静かな深い感動を心に残してくれる。(石林 記)

『 指揮者 』 永井 宏



マーキュリー・グリー・クラブ常任指揮者。1960年一橋大学卒業。在学時代一橋大学コール・メルクール指揮者。指揮法を荒谷俊治氏、故浜田徳昭氏に師事。ピオラを東義道氏に師事。アマチュアオーケストラや合唱団の指導に豊かな経験をつ。コール・アネモネ常任指揮者、三井海上管弦楽団名誉指揮者。

『 ピアノ 』 中野 マリ



桐朋学園大学ピアノ科卒業。お茶の水女子大学院修士課程(演奏学専攻)修了。西尾悠美子、富本陶、遠藤秀一郎の各氏に師事。アメリカ・中国でのリサイタルや東京交響楽団との共演、教育テレビ、FM放送などでの演奏活動を行っている

『マーキュリー・グリー・クラブの紹介』

当団は一橋大学男声合唱団「コール・メルクール」のOBを中心母体として1999年に発足しました。団員数は約50名で、週1回池袋の東京芸術劇場のリハーサル室で練習しています。団員の中には、東京六甲男声合唱団、東京南漕会のメンバーのほか、いろいろな大学のOBの方も参加しており、練習後の飲み会はさながら「大学交流懇親会」です。

これまで3回の定期演奏会を開きました。その中で演奏した主な曲目は、日本民謡、オペラ合唱曲のほか、「水のいのち(高田三郎)」「富士山(多田武彦)」「合唱による風土記～阿波(三木稔)」「シューベルト・ミサ曲ト長調 D. 167(男声版)」「フォーレ・レクイエム(男声版)」などで、正統派合唱団として着実な活動を重ねています。2004年夏には、初の海外演奏旅行として、南フランス・プロヴァンス地方で開催された国際合唱祭に参加しました。昼間はエクスカッション、夜、演奏会。5日間毎日違う教会で午後9時開演、ホテル帰着は12時過ぎという強行スケジュールでした。平均年齢六十歳の当団にとって厳しいものでしたが、各地の教会で体感したハーモニー感や聴衆の暖かい反応は忘れがたく、当団の貴重な財産となりました。

今年12月には、4回目の定期演奏会を行う予定です。客演指揮者として田中信昭氏をお招きし、現在ジョスカン・デ・プレ「ミサ・マーテル・パトリス」のご指導を受けています。厳しくも暖かい同氏のご指導により一皮剥けるであろう当団をご期待下さい。

『 曲目解説 』 男声合唱組曲「柳河風俗詩」 合同演奏

詩/北原白秋 作曲/多田武彦

この組曲は多田武彦の男声合唱組曲としての処女作品であり、男声合唱のスタンダード・ナンバーで数多く演奏されてきた。詩は北原白秋の詩曲「思い出」の中に収められており、柳河はその前段に書かれた白秋自身の「わが生い立ち」の中に描かれている。

- 「柳河」 白秋の郷里の夕暮れ時の光景を、馭者に託して歌った序章である。
- 「紺屋のおろく」 若者たちの美しい女への憧憬と反感を、交互に歌っている。
- 「かきつばた」 崩れ落ちた城下町に侘しく住まう花街の女を、柳河の溝渠に咲く「かきつばた」に託して歌っている。
- 「梅雨の晴れ間」 ふと、柳河を訪れたしがたない旅役者の生活を、終始変わらず軽快なリズムで歌い、この組曲の終曲に導いている。

『 指揮者 』 今西 弘一



1957年大阪市立大学経済学部卒。現役時代、グリークラブ部長、混声合唱団初代指揮者を勤める。卒業後ジュピター・コール、グリーン・エコーに入団。幹事長、団内指揮者として活躍した。退団後、職場の合唱団、地域のママさんコーラス、南漕会合唱団等の指揮者を勤め、その後六甲男声合唱団、新生ジュピター・コールを経て現在南漕会合唱団の指揮者として活躍、また男声カルテット、キング・フロッグスのセカンドテナーを担当している。



各 団 連 絡 先		
マーキュリー・グリー・クラブ	篠崎 博	TEL 042-381-3446 FAX 042-388-0484 E-mail hk-shino@yahoo.co.jp
六 甲 男 声 合 唱 団	長 央 徳 太 郎	TEL / FAX 0798-47-2439 E-mail ty-ngo@nyc.odn.ne.jp
南 漕 会 合 唱 団	中 島 泰 典	TEL / FAX 072-626-9290 E-mail fantasia@moon.step.ne.jp
東 京 南 漕 会 合 唱 団	宮 内 隆 造	TEL / FAX 048-925-4159 E-mail HQJO7112@nfty.ne.jp

旧三商大 OB 男声合唱団

交歓演奏会

2005年3月19日(土) 大阪国際交流センター 大ホール

開場 / 午後 1:30 開演 / 午後 2:00 入場料 ¥1,000

1. 六甲男声合唱団

モテット

1. IN MONTE OLIVETI
作曲 / G. B. Martini
 2. HODIE APPARUIT
作曲 / O. D. Lasso
 3. AVE REGINA COELORUM
作曲 / G. Aichinger
 4. AVE MARIA
作曲 / Vittoria
 5. O SACRUM CONVIVIVM
作曲 / Viadana
- 指揮 / 井上 和雄

2. 南濤会合唱団

男声合唱組曲「月光とピエロ」

1. 月 夜
2. 秋のピエロ
3. ピエロ
4. ピエロの嘆き
5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様
詩 / 堀口大学・作曲 / 清水 脩

指揮 / 三栖 隆

3. マーキュリー・グリーン・クラブ

ロシア民謡

1. 黒い瞳 編曲 / イ・ジュンチル
2. ともし火 編曲 / 三木 稔
3. 鶴 編曲 / 荒谷俊治
4. カチューシャ 編曲 / 福永陽一郎
5. 緋色のサラファン 編曲 / 福永陽一郎
6. カリンカ 編曲 / グス・アントン

指揮 / 永井 宏

ピアノ / 中野 マリ

4. 合同演奏

男声合唱組曲「柳河風俗詩」

1. 柳 河
2. 紺屋のおろく
3. かきつばた
4. 梅雨の晴れ間
詩 / 北原白秋・作曲 / 多田武彦

指揮 / 今西 弘一

☆未就学児の入場はご遠慮下さい。 連絡先：南濤会合唱団事務局 中島泰典 TEL (FAX) 072-626-9290